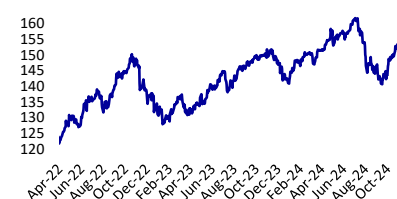


市場動向

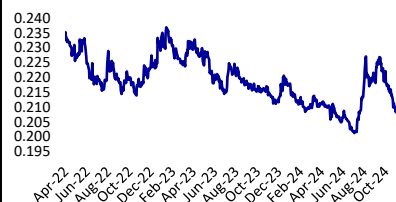
■USD/TWD



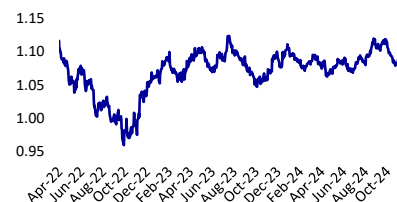
■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



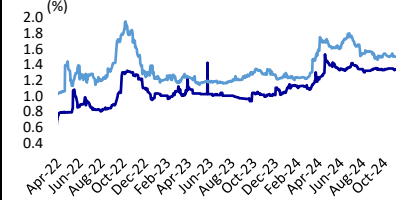
■USD/CNH



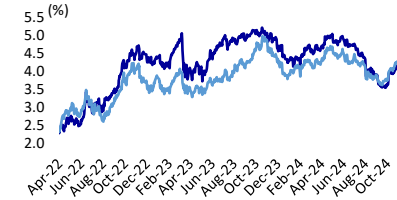
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初10/28は32.090でオープン後、外国人投資家による台湾ドル買いが見られた他、輸出業者による外貨売りが見られたことにより、台湾ドル買いが優勢な展開に。しかしその後、米大統領選等の不透明感を背景に、ドル買いが優勢な展開となり32.10近辺まで上昇。10/29は、米大統領選候補者のトランプ氏からの発言により地政学リスクが意識される展開となり、台湾株が下落。外国人投資家による台湾株売りが見られる中、台湾ドル売りが優勢な展開となり32.10台前半まで上昇。10/30は、外資による資金流入が見られたことや、海外投資資金送金の需要縮小等を背景に台湾ドルが買い戻され、一時32.00台前半まで下落。10/31は、台湾休場。11/1は、台風による休場期間中、グローバルにドル売りが見られていたことを受けて、ドル/台湾ドルは31.90台後半まで下落。その後、米雇用統計の発表や米大統領選を控える中、実需のドル売りが見られ、ドル/台湾ドルは31.90台後半で上値重く推移した。最終的には前週比0.3%ドル安台湾ドル高の31.968で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は453.3億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初10/28は152.30でオープン後、前週末に実施された衆院選において自公過半数割れとなったことを受けて、今後の政策運営懸念が高まる中、円売りが優勢な展開となり一時153.88まで上昇。10/29についても、衆院選の自公過半数割れという結果を背景に円売り圧力が残存する中、153円台で底堅く推移。10/30は、翌日に日銀金融政策決定会合を控える中、様子見姿勢が強まり153円前半で揉み合いの推移。その後海外時間に発表された米10月ADPと米第3四半期GDPが市場予想を上回る結果となり、153円台半ばまで上昇。10/31は、日銀金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定。日銀の植田総裁より「経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて政策金利を引き上げていく」とのスタンスが示されたことで、円買いが進み152円前半まで下落。11/1は、植田総裁のタカ派的発言を受けて、円買いが進み151円台後半まで下落。海外時間に発表された米10月雇用統計が市場予想対比較調な結果となったことを受けて、円買い圧力が強まったものの、その後ドルが買い戻され153円近辺まで上昇。最終的には前週比0.4%ドル高円安の153.00で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.700-32.100

今週は揉み合いの推移を見込む。米雇用統計が市場予想対比較調な結果となったことを受けて、米国における利下げ期待は高まるものの、米大統領選とFOMCを控える中、ドル/台湾ドルは売り買い交錯となるであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：150.50-153.50

今週のドル/円は揉み合いの推移を見込む。発表された米雇用統計が市場予想を下回る結果となったことから、労働市場の減速は確認されたものの、米大統領選とFOMCを週頭に控える中、様子見姿勢が強まりやすいであろう。

今週の予定

11/4 (MON)	米9月製造業新規受注
11/5 (TUE)	米10月ISM非製造業景況指数、米大統領選挙
11/6 (WED)	BOE
11/7 (THU)	FOMC
11/8 (FRI)	台湾10月輸出入受注、台湾10月貿易収支、米11月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。